

根室半島湿原群視察2

歯舞湿原を視察しました

党議員団は18日、会派紘の須崎和貴議員とともに歯舞湿原を視察しました。4月25日に引き続き、2回目の視察です。



今回は、前回案内していただいた高野建治氏とともに、東京大学地理学博士の近藤玲介氏が同行。市内でネイチャーガイドをされている方も一緒でした。

近藤氏は、北大植物園園長である富士田裕子氏が代表を務める「根釧湿原研究グループ」のメンバーで、根室には何度も訪れ、湿原の地層等を調査しています。

私たちは、身近にある地域の環境について、今一度見つめ直す必要があるのではないのでしょうか。

根室の湿原群の価値と重要性(近藤氏作成の資料より)

地球規模での意義
○二酸化炭素を貯留する場所としての機能

○生態系の保管庫
○SDGsの理念とも合致

日本列島での意義
○湿原・泥炭地自体が消滅しつつあるので北海道の湿原・泥炭地自体が希少

○生態系の博物館・保管庫

根室での意義
○日本列島の中でも湿原と泥炭地が広く分布する珍しい地域

○第一級の地域自然資源(観光資源・教育資源・沿岸海洋環境・漁業資源の背景としての里山・里海的機能)

○北海道内でもここにしかないタイプの湿原が分布しており学術面でも希少であるだけでなく、地域資源としての価値は非常に高い

1日付市議団ニュースで紹介したとおり、根室の湿原には、本州では高地にしか自生していない植物が普通にみられるとともに、環境省レッドリスト掲載植物のうち20種類が確認されています。

湿原の地層は…



貴重な湿原を守るために
今回の視察で、近藤氏から湿原の保全に向けたアドバイスをいただきました。

まず重要なのは、私たち根室市民が、根室の湿原がいかに貴重で価値のあるものなのかを知ることです。そのためにも、やはり、専門家とともに現地を訪れ、直接触れることです。

また、立入り禁止などの過度な規制よりも、ゾーニングはしっかり行い、木道や展望タワーなどを設置して観光資源とすることも検討すべきとのことでした。

さらに近藤氏は、「地域の方が湿原でギョウジャニンニクなどを採取することは、湿原の里山としての役割といえる」と肯定的にとらえ、適切なルールのもとで「ハスカップ採取ツアー」なども提案されました。

いずれにしても、身近にある湿原と賢く付き合える、賢く利用すること。そのためには、まずは「知ること」です。